えん

寿東部地区
社会福祉協議会
広報誌

第7号
平成25年4月

忘れるな!! 2011年3月11日…
東日本大震災を
備えよう都市型大震災に!!

都市型震災に備えて

寿東部地区社会福祉協議会　会長　中村　宣吉

平成24年12月18日、読売新聞夕刊全国版紙上に「地域の防災、外国人と」というテーマで大きく取り上げられました。震災訓練の記事は同年11月10日、寿東部地区「南吉田小学校」で行われた「地域防災拠点訓練」の要点、特に小学校生徒と外国籍生徒の保護者を対象とした合同訓練でした。内外から非常に反響を呼び“新しい訓練方法”として高く評価されました。

今回は2011年3月11日の東日本大震災をふまえてテーマを都市型の災害にしぼり「身についた防災訓練の道」として「小学生及び外国籍者、要援護者」を対象とした訓練の反省点、問題点等にせまってみました。

（夕刊　読売新聞　2012年12月18日号）

夕刊　読売新聞　【朝夕刊月ぎめ定価3925円（本体価格3738円＋消費税187円）】1部売り朝刊130円・夕刊50円　（第3種郵便物認可）

外国人に対する防災支援の取り組み

岩手県	県国際交流協会が、被災地外国人相談員を沿岸部に設置
福島県	県国際交流協会が、外国人の自助・共助組織のリーダーを育成するためのセミナー「外国出身県民キーパーソンアカデミー」開催
群馬県	大泉町で在日ブラジル人を中心にしたボランティアセンターを結成。防災訓練などを行い、行政とのパイプ役となる人材を育成
東京都	八王子国際協会が、避難所などの情報を載せた「災害ヘルプカード」を5000部作成。使用言語や連絡先を記入し携帯してもらう
静岡県	県国際交流協会が、沿岸部を実際に歩き、高台への避難経路などを確認する防災研修をフィリピン人グループを対象に実施
兵庫県	外国人親子向けの防災ガイドブック作成中。災害時の心得や注意点をまとめ、来年1月に1000部を外国人コミュニティーに配布予定

地域の防災 外国人と

震災きっかけ 訓練参加・仲間づくり

東日本大震災をきっかけに、外国人を地域社会へ組み入れようとする動きが広がっている。震災では安否確認に手間取ったり、支援が行き届かなかったりしたことから、外国人のネットワークを作ると同時に、日本人社会と積極的に関わることで災害に強い地域を作るのが狙いだ。

担架を組み立て、運ぶ訓練をするタイ人女性とフィリピン人女性（11月、横浜市立南吉田小で）

「これは、体の向きを変えるべ、という意味です」。講師が黒板に「体位変換」と書きながら説明するのを鈴木ジェニファーさん（41）がメモを取っていた。

被災した外国人を対象に宮城県気仙沼市が開いているホームヘルパー2級の資格取得を目指す講座。鈴木さん、震災で職を失ったフィリピン人女性7人が、日本語や実技を学ぶこの講座では、仙台市の専門学校から派遣された講師が、難しい介護用語でも外国人が理解できるよう丁寧に説明していた。

鈴木さんは、気仙沼市内でカキ養殖業を営む夫と結婚し、16年前に来日。津波で夫を失い、養殖場も家も流された。2人の子供を養わなければならないのに、収入は義援金頼みとなった。途方に暮れる中、友人に誘われ講座に通い始めた。

東北地方では日本人男性と結婚した外国人女性も少なくなく、鈴木さんのように夫を失うと孤立しがちになる。「読める漢字も増えたし、仕事が具体的に見えてきた」と鈴木さん。気仙沼市まちづくり推進課は「講座を通じて、仲間づくりをしてもらうことも狙いの一つ」と説明する。

震災では、日本語教室が外国人の安否確認に大きな役割を果たした。岩手県宮古市で日本語教室を開く佐々木匡人さん（50）も震災時、15人の生徒全員の所在を確認した。被災地では日本語教室に通う外国人が増えているといい、佐々木さんは「震災で知り合いがいないことの怖さを意識したのではないか」と話す。

積極的に防災訓練などに参加する外国人もいる。

横浜市南区の南吉田小学校で11月に開かれた「防災フェア」は、参加者273人のうち56人が外国人だった。中国語とタガログ語の通訳が用意され、自動体外式除細動器（AED）の使い方や、簡易担架の作り方などを体験した。

参加者に名前と連絡先を書いたカードを掲出してもらって、各町内会長が把握できるようにした。会長の一人の中村宣吉さん（77）は「外国人同士のつながりも強まり、日本人からの情報が伝わりやすくなる」と狙いを説明する。

東京都江東区では11月、地域の外国人に災害情報を伝えるための社会実験が行われた。携帯端末向け放送の「ワンセグ」機能を利用し、一時避難場所へ誘導する地図を動画で示すもので、同区大島地区に暮らすインド人世帯が実験に参加した。その一人、会社員のシン・ラメシュさん（38）は「日本人もインド人も同じ情報を見られるので、混乱しなくて済む」と話していた。

寿東部地区と地域防災拠点

南区役所税務課長　太田　正雄

昨年から寿東部地区連合町内会の担当となりました。何かお役に立ちたいとの思いで、月例会で地域の取組みなどの話を聞かせていただいています。また、いくつかの行事にも参加させていただきました。盆踊りや健民祭では、小さなお子様から御高齢の方々まで、たくさんの地域の人が交流しているところを、酉の市では、歴史や伝統をしっかりと継承しているところを拝見し、寿東部地区の底力を感じました。普段は区役所の中でも特に固い仕事をしているので、地区の方々と接する機会は、温かさを直接肌で感じることができる貴重な時間となっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、東日本大震災から２年が経ちました。その被害は甚大で、復興には相当の時間がかかりそうです。横浜市では、現在も復興支援のために被災自治体への派遣を行っており、先日は私の職場の職員も１年間の派遣募集に立候補したところです。被災地の方々の生活が少しずつでも良くなることを願ってやみません。

東日本大震災は大きな被害をもたらす一方で、我々に数々の教訓を残しました。横浜市は被害想定の見直しを行い、「津波」対策を加えた横浜市防災計画や「減災」目標を達成するための地震防災戦略の策定を進めています。南区16地区の中で寿東部地区は、世帯数、人工密度、外国人数などの数値が他の地区と比べて高く、被害想定に加えてこれらの特性を踏まえた対策が必要と考えられます。

そこで、南吉田小学校防災拠点訓練では、23年度から外国人対応を中心とした訓練を取り入れました。外国人参加者が少なかったこともあり、24年度は地域中心の訓練を行う方向でしたが、学校からの要請もあり、引き続き外国人対応を中心とした訓練を行い273名の参加を得ることができました。短い準備期間で何とか成功できた要因は、連合町内会の各町内会長を始め、地域の方々の「地域の為にできる限りのことをやろう」という「心意気」に尽きると思います。

大規模災害に備え、主に避難生活を送るための地域防災拠点の訓練は、地域の特性に応じた内容にする必要があります。運営委員会の運営方法や災害時の要援護者対策など解決すべきことはありますが、一緒になって解決のお手伝いができれば幸いです。

要援護者支援活動について

真金町第一町内会役員　浅野　正毅

3.11東日本大震災の教訓を生かして、当町内会は真金町公園を緊急避難場所、および防災拠点に設定して年一回の防災訓練を実施してきました。

町民から事前に避難参加の申し込みを受け、訓練当日の地震発生時間を予告し、避難参集する方式です。

高齢の方は杖や押し車を用いての参加でした。

しかし、大震災は実際予告なく突然に襲来します。訓練後の反省会議や参加者アンケートでは、近隣にお住まいの高齢者、障害者、外国人など、一人で避難することが困難な方々はいったい誰がどのように支援の手を差しのべるのかが課題になりました。

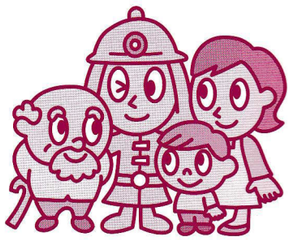
地震発生直後は消防、警察、行政組織も被災対応で手いっぱい。町内会の防災役員も自分と家族の身を守るのが精いっぱいとなってしまうのでは？

されど、地域の絆が互いに助け合う心を持ち合い、醸成されることを信じて、町内会が避難の援護を必要とする方々の支援組織を立ち上げることとしました。

中村町内会長の指示により、

1）地震発生直後に行動する仮称「地震時安否確認声掛け隊」を町内防災役員及び有志により組織する。
2）隊員は、横浜地域において「震度４以上」を認知したら、真金町公園防災倉庫前に緊急集合し、別に定める「行動マニュアル」によって要援護者の安否確認行動等を実施する。
3）隊員は、自身及び家族等の安全を確認した後、参集すること。
4）隊員は、自宅から出動する場合は、あらかじめ貸与されたヘルメット、及び防災ジャケットを着用する。
5）隊員は、日頃から、民生委員と協力して、要援護者宅の所在の把握につとめる。

などの基本方針をきめました。現在、役員会において隊の「行動マニュアル」の詳細を策定中で、四月の総会の議決を待って実行に移す予定です。



災害時要援護者名簿の作成にあたって

高根町西町内会　野村　良子

平成21年４月に役所の高齢・障がい支援課から、「災害時要援護支援事業」に関するアンケートがあり、それを機に木村町内会長と私（民生児童委員）で災害時要援護者名簿づくりに取り組む事にした。まず、町内回覧で名簿への登録（希望制）とし、希望する方は申込書（兼同意書）に必要事項を記入し、封入して各班長に提出してもらう様にした。又、町内回覧をする前に町内会役員、高根クラブ（老人会）で、名簿作成の主旨と支援希望者の募集方法を充分に説明し、協力を得た。又、民生関係で高齢者定期訪問をしている方の申し込みが少なかったので、１件１件訪問し、災害時に自力で避難が困難な方を支援する取り組みだと言う事を説明して歩いた。

実施にあたっては「災害時要援護者」の把握で、本人からの申し出・町内会による調査の２本立で木村会長と相談しながら活動をしたが、要援護者の近所付き合いを考慮してどこまでの声かけをするか、そして、常に個人情報の壁が前面に出てきており、正確な人数を把握する事が困難と、取り組みを進めるにあたっての課題も生じてきた。申込者全員に同意書の確認をし、約３ヶ月かけて名簿は完成した。

高根町西町内会では町内行事には町内会長はじめ役員各々が近所の方に直接声かけをしているので、ここ５～６年で参加人数が２倍近く増えている。単身高齢者や障がい者の方に日頃の見守り、声かけ活動を理解していただき時間をかけて良い（信頼）関係を築いているが、さらに「活動の強化」として顔の見える関係づくりが重要だ。

普段から常に微かな異変も見逃さない見守りが大事であり、それは町内役員・民生児童委員だけでは限界があるので、地域全体での連携を強化し、情報がスムーズに正確に流れる様にネットワーク化を図り、行政、地域ケアサービス、寿東部連合地域との一元化が今後の課題だと思う。

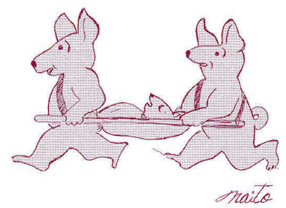
第二回地域防災拠点訓練

高根町東町内会　内藤　稔

平成24年11月10日(土)に南吉田小学校で、地域防災訓練訓練が行われた。前年の反省を含めて、外国籍の生徒に限らず、参加人員を大幅に増やしたい意向を受け、小学校、区役所、社協、連合町内会、とそれぞれの分野での共同作業となるため、三回の会合が連合会館で行われ、資料を持ち寄り何とか足並みを揃え、開催の段取がついた。

10日の朝、校門の外に関係者全員が、ヘルメット着用で集合した。私は区役所のシナリオに沿って進行を務めるため、拡声器を持ち、これからの流れを説明した後、校門、体育館、備蓄庫へと、鍵の確認を行い開錠する。更にライフラインの確認の後、備蓄庫からデジタル移動無線機の子機を持ち出し、職員室前のジャックにつなぎ、区役所と通話するのを、多くの関係者が見守った。シナリオに沿って拡声器で説明しているのだが、ふと自分で何を言っているのか解らなくなり、困った。何度も訓練のシナリオを読み返し、自分の言葉で書き直してから、進行を務めなければならないと感じた。その頃生徒たちは、各クラス別に屋上への避難等の訓練を終えて、校庭に出て来たが、そのまま帰宅しようとする者も居るので少しでも訓練に参加する人員を多くするため、受付を通そうと声をかける。応じてくれた生徒は保護者も含めると273名が記帳を済ませてくれた。スタッフはその人々を各ブースへと導く。その内外国籍の生徒及び保護者は56名であった。４ヶ所のブースは、AED、煙体験、担架作成、消火器の取扱いと、順次体験出来るので生徒達は熱心に説明を聞きながら、体験を楽しんでいる。普段は仲々接するチャンスが無いため、各コーナーは大人気で、AEDなどは仲々交代しない子供が多くいた。やがて昼近くとなり、校庭に日本そして外国籍の生徒と保護者、その後、連合町内会の町内別の生徒、スタッフ等参加者が全員整列し、校長、連合町内会長の挨拶があり無事に終了となった。

結局外国籍の参加者は前回より大幅に増えたのだが、未だまだ少ないと感じた。次回は学校のPRを更に強め、参加意識を高めていきたいと思う。防災訓練は、体験する事で実際の災害が発生した時の行動が、全然違うものになると、一連の流れを見ていて確信した。読売新聞社の取材も有り、各方面での関心も高まっていると感じた。



防災訓練に学ぶ

白妙町第一町内会　樋口　八千代

2012年11月10日南吉田小学校の校庭で寿東部防災拠点訓練が行われた。

けむり体験など、いろいろなブースがあり、中でもAED（Automade, External, Defibrillataror）「自動体外除細動器」のブースでは「突然心臓が止まってしまった人」のための蘇生訓練が行われた。外国籍の生徒を含め、老若男女、声を合わせて１、２、３と心臓マッサージを行ったり機械を装着させ、スイッチを押したりして、人命救助の訓練を学びました。

東日本大震災をリアルタイムで体験した私たちですが、戦時中、小学生だった母も、戦後生まれの私も、南吉田小出身です。この訓練をおこなっている大地も過去に２回被災しています。

1923年(大正十二年)9月1日、関東大震災（あの山下公園は関東大震災のがれきでできている）1945年5月29日横浜大空襲。

私の明治生まれの祖母は、「おらは根岸の山へ逃げて助かったが、久保山へ逃げた人はB29が最初に木の橋を落としたので、逃げられなくて死んだ人が多い。だからなにかあったら根岸の山手へ逃げろ」とよく言っていました。そういえば小学校の時の全校遠足は、そういう意味で、いつも根岸の競馬場（今の森林公園）だったのかなあーと後になって思いました。

またあるおじいさんはあの空襲の後に、今は地下鉄になってる川で被災した人が苦しそうに助けを求めていたので、その人たちを助けるために肥やし船（肥やし船だけが焼けずに残っていたそうです）で、やっと息をしている人たちを船に引き上げて助けたよ。という話など、多々聞いています。

そんなこの地に生きて、その時何ができるのか？何をしなければならないのか？そのような現実を知らない私達世代が、必要なのはやはり「絆」ということでしょうか？

昔は南吉田小学校の中庭に鎮座していた二ノ宮金次郎（現在は西側）も見守ってくれることでしょう。

すべての過去を教訓とし、よりよい人間及び地域環境の構築こそが第一歩なのだと思いました。今回の訓練にもわが町内会は田中会長を始め、多数の方が出席し、又白妙町第一町内会におきましても、炊き出し訓練も兼ねた「餅つき」やバーベキューなど毎年行っておりますが、老人会、婦人部、青年部、子供会や保健委員、家庭防災委員、友愛委員、民生児童委員等が一丸となり、災害に備えなければならないと、近くは2011年3月11日の東日本大震災をもって、改めて戒められました。しかるべくは訓練と準備!!

これからも一層「えん」を円々と延々に広げていきたいと痛切に感じました。

防災講話会実施について

永楽町内会・災害対策部　佐山　松夫、水上　美喜夫

昨年11月4日、寿東部連合会館で防災講話会を開催いたしました。

東日本大震災が起きてから一年以上経過しましたが、余震の回数も多くなり、大地震が起こる確率も高くなりました。津波も起こる予想が出て町内では、より一層不安を抱く方が多くなりました。そのような状況の中、町内会では防災訓練をする必要を強く感じました。そこで昨年7月に南消防署中村町消防出張所を訪れ、防災訓練の方法を尋ねました。消防署職員との話し合いで、今回はもう一度震災の恐ろしさを理解する為に、防災や震災被害の状況などの話を伺う事になりました。消防署職員のアドバイスで講話会形式で行なえば、町内の方も参加しやすいのではないかとの意見を承わり、「防災講話会」に決まりました。

講話会の講師には、中村町消防出張所の星大（まさる）所長様に引き受けていただきました。防災講話会の内容は次のとおりです。

1. 東日本大震災の状況と被害の現況
2. ビデオによる防災対策
3. 質問コーナー

テーマごとに解説をしながら、話を進めていただきました。

参加された方からは、具体的に防災に必要な用具と備え、そして避難の際に危険から身を守る方法などを教えていただき、自宅の防災対策を見直して安全に避難出来る様にしたいという声が上がっていました。

熱心に拝聴され、震災の恐ろしさが理解されたと思います。

特に今回は高齢者の方が多く参加されて、真剣にメモを取りながら聞いていました。

行政が高齢者対策に取り組んでいる事が、多くの出席者をいただいた理由であるのではないかと思います。

これからも町内会としては、講話会の話を生かす為に防災訓練を工夫しながら、多くの方に参加していただく様、取り組んでいきたいと思います。

下町千人の防災訓練

万世町内会　伊藤　隆

今年の南区賀詞交換会は、南区が誕生して70周年との記念式典でしたので林文子市長が出席され、お祝いの言葉と震災に備え市民の安心・安全をテーマに努力していきたい、各地域においても防災に向け協力をお願いしたいとの挨拶をされました。

横浜市は毎年各町内会に活動費補助金を交付してくれます。各町内会は毎年防災計画を立案しその報告をします。当万世町に於いても町民を対象に避難誘導・消火救出・起震車や煙体験・炊出し給食等の訓練を実施し翌年はヘルメット・タンカ・リヤカー・救急箱・簡易トイレ等の資機材の補充にと活用しています。昨年は体験訓練の年に当り、神奈川区の市民防災センターへ貸切路線バスにて各体験と震災についての講演を受けてきました。地域では一昨年の3・11東日本大震災の時、地震体験のない外国籍の住民が南吉田小学校へ自主避難して来て翌朝まで帰らず怯えていたとの話しを聞き、同年11月16日の日曜日、学校・南区役所・寿東部連合町内会が協議し早速地域に住む外国籍の皆さんを対象に避難訓練を実施しました。母国語で書いた案内書を生徒を通じ手渡したにも拘わらず参加者は数十人と残念な結果でした。当日は数ヶ国の通訳ボランティアのスタッフにもお願いしていたのに、「防災訓練」そのものが理解されなかったのでしょう。

その反省から昨年は南吉田小学校生徒数580人（内35％が外国籍）先生・保護者を対象に一丸となっての防災訓練を南区役所・社会福祉協議会・消防署・消防団と地域の寿東部連合町内会の連携協力による1,000人参加の合同防災訓練が11月10日の土曜日に実施されました。当日は晴天に恵まれ生徒を迎えに来た父兄が避難者カード・各国のカードに記帳し各町受付に提出し校庭に親子で整列する。すでに校庭には4つの体験ブース、AED, 消火, 煙体験, タンカ作りが準備してあり、それぞれの担当者の説明後皆さんに体験してもらい有意義な合同防災訓練になりました。

親子三代南吉田小学校卒業など珍しくないなどこの地域は今もなお下町の風情が多分に残り祭礼・盆踊り・健民祭・酉の市など最寄りには大きな商店街も多く外国籍の方にも暮らしやすいのでは。因みに酉の市でのお賽銭になんと26ヶ国のお金が混じっていたとの話しに改めて納得出来ました。

防災訓練に参加して

浦舟町東部町内会　関口　武

新年あけましておめでとうございます。ことしも、昨年同様災害のない一年でありますよう祈念せずにはいられません。

さて、昨年は地域が学校、行政と一体となり防災拠点訓練が行われ、成果の程が問われました。35％の生徒が外国籍であり、その成り行きが懸念（注目）されていたが、学校当局の先生方の配慮により無事に執行された事は次のステップにつながるものと感じられた。

ただ一部の親たちは忙しいのか子ども達を引き取ると訓練にも参加せずに帰宅した事に一つの不安と、これからの取り組みに対して一考を投じるものと思われた。また各町内会に分かれ災害等に必要な、消火、AED、タンカ、煙体験等を消防団の方々の適切な指導で盛り上り、その日の訓練が成功であった事を改めて感じたところです。

地域、行政と一体となる訓練は必ず役に立つと思われる体験であった。ただ外国人の御家族にも理解出来るよう周知徹底を計りたい。最後にこの訓練がいつ来るかも知れない震災に備えて、継続的に年一回開かれることを提案します。

今日から認知症サポーター

浦舟町西部町内会　高木　正隆

寒風が頬を叩く１月28日の朝９時半から、南吉田小学校の体育館で、４年生の三クラスを対象として、「認知症サポーター小学生養成講座」が開講されました。私も浦舟地域ケアプラザの山田氏よりご案内を受け、講座に参加してきました。

「認知症について正しく理解し、支え合いの大切さを知ることで、認知症の方や高齢者に対して、自分たちができることについて考える」ことを目的とした講座で、講師は、横浜市キャラバンメイトのメンバーの方々４名が務めて下さいました。

まず、パワーポイントを使用した、「認知症ってなあに？」の講話がありました。

参加児童がお父さん、お母さんになる2040年ごろには、三人に一人が65歳以上の成熟社会になり、その社会で心配されることのひとつに、「認知症」という誰にもおこる脳の病気があるという事。認知症になった脳と健康な脳の違い。認知症になるとおこる事例の数々…。この辺になると、児童も静かになって講師の話に耳を傾けてきました。

次に、キャラバンメイト及び児童、先生による寸劇が行われ、認知症、或いは認知症と疑われる方への理解を深めて対応に工夫した例と、そうでない例が示されました。生徒たちも、仲間が演じる寸劇に真剣に見入っていました。寸劇が終了すると、ここまでの質疑応答になり、子供らしい鋭い質問に講師陣も真剣に対応していました。休憩後には、山田氏より、浦舟地域ケアプラザの事業内容、地域のボランティア等の活動・交流の場としての利用の推進、福祉に関する相談・助言・調整の説明があり、キャラバンメイトからは、講座終了の証として、参加児童全員に「認知症サポーター小学生養成講座副読本」とオレンジリングが配布されました。

覚えられない。忘れてしまう。「今日は何日？」「ここはどこ？」「あなたは誰？」同じ事を何度も言ったり尋ねたり…。この様な症状が全部出る訳でもありませんし、急速に出るものでもありません。千差万別と言ってよい程、人それぞれで、また、濃く出る人とそうでない人があるようです。大事な事は、今を受け入れ、「大丈夫ですよ」と声をかけ、寄り添い、共に不自由さに耐えて生きていく事かもしれません。

南吉田小学校４年生の皆さんは、「自分がおかしくなっていると感じ、誰よりも苦しんだり、時に悲しんだりしている」認知症の方々への理解が進んだのではと思います。「自分にできることは何か」を考えるよいきっかけになったのではないでしょうか。

トピックス

やすらぎ保育園を祝う!!

寿東部地区社会福祉協議会　会長　中村　宣吉

25年４月１日より万世町２丁目に“やすらぎ保育園”が開園されました。ほんとうにおめでとうございます。

私はかねがね寿東部地区社会福祉協議会として、地元に幼児又は子ども達のサロンを何とか設置したいと思っておりましたが、まず適当な場所を探すのに苦労しておりました。過日高橋薬局のオーナーに相談しました所、今建設中の“やすらぎ保育園”の３階に日曜日だけなら提供出来る室があるとのことを伺いました。普段は保育園の定期使用室ですが日曜日は使用しても差しつかえないとのうれしい申し出をいただきました。

早速25年度の寿東部地区福祉事業の目玉にと思い、今後のサロン立ち上げ、運営方法の勉強に入ろうかと思っています。幸い社協、区役所の福祉保健課等に運営のノウハウを教えて頂くセクションも有ると聞いてますので、協力いただける方々と一緒に立ち上げに力を注ぎたいと思います。尚力を貸していただける方はぜひ寿東部地区社協事務局まで御連絡下さい。（事務局所在は編集後記を参照）

保育園日誌

寿東部地区社会福祉協議会　会長　中村　宣吉

平成 24 年 6 月 13 日

マーノ保育園児 、真金町公園に来たる。

南土木事務所公園課の新井さんより連絡があり“保育園児が自分達で種を植えたポット苗を何処かの公園に実際に植えたい”という話を聞き、真金町公園に“どうぞ”という運びになりました。土を掘りおこして、花鉢に、プランターに植えかえ、皆でキャーキャーいいながら作業を終えました。春（初夏）の種まきと花壇作りから秋に咲くコスモスの開花を夢見ながら夢ふくらむ一時でした。

10 月 21 日

心なき女子中学生が園児が植えて生長しかけたコスモスの花を引き抜いてちりぢりに捨てたと聞き怒り心頭、むなしさを感じました。園児達になんといってなぐさめたらいいか？残ったコスモスをみて一句

「幼な子のうえしコスモス　秋深し」

いつの日か花壇の花を引き抜いて悪さをした女子生徒も気がつく時が参ります。私達大人はしんぼう強くそれを待ちたいと思います。

11 月 29 日

マーノ保育園児 16 名来公園

花壇にストック、ノースポール、パンジーとチューリップの球根を植えた。又園児達が種から育てたヤグルマギクをポットから花壇に移し植えをしました。

キャーキャーと黄色い声が飛び交い、公園の空気がいっぺんに空に向かって飛びたった様でした。

25 年 3 月 15 日

花壇に移し植えたストック、ノースポール、パンジーの花が見事に根づき咲きました。又、チューリップの球根も立派に根づいていまにも花を咲かせそう。咲いたらマーノ保育園児を呼んで見せてやりたい。早く !!

保育園児と真金町公園のほんのちょっとしたつながり“えん”で子ども達との会う瀬の楽しさ、を味合うことが出来た。あまり花に関心を持たなかった大人に何か楽しさと、待ち遠しさを運んでくれそうな花壇、その上に桜の花が咲き、桜月夜を演出してくれています。でも花より“だんご”で一杯なんて不謹慎かな。

保育園児が季節の福を運んでくれました。

これも“えん”かな？

編集後記

忘れるな、3.11 という強烈なインパクトは 2 年経った今でも、我々にとって最大の関心事であります。しかしここに来て、ああの体験を通し、考え方もかなり細分化され、方針が見えて来た様に思います。結局一人一人の意識の向上が、減災への取組みの基本となるのでしょう。

寿東部地区社会福祉協議会　事務局長　内藤　稔

寿東部地区社会福祉協議会　事務局　中村宣吉
〒 232-0021　横浜市南区真金町 1-5　TEL.045-261-7998　FAX.045-260-6473